

見ごろ咲きごろ花さんぽ

赤山・安行を歩いていると、緑の多さに目を奪われます。植木農家や造園業者が並ぶ中、手入れされた庭を開放しているお家もあり、自然を取り入れたライフスタイルの一端がのぞけます。のどかな散歩道の途中でおみやげに新鮮野菜や草花を買えば、身も心もフル充電できそうです。

赤山～安行で見つけた緑たち(オープンガーデン)

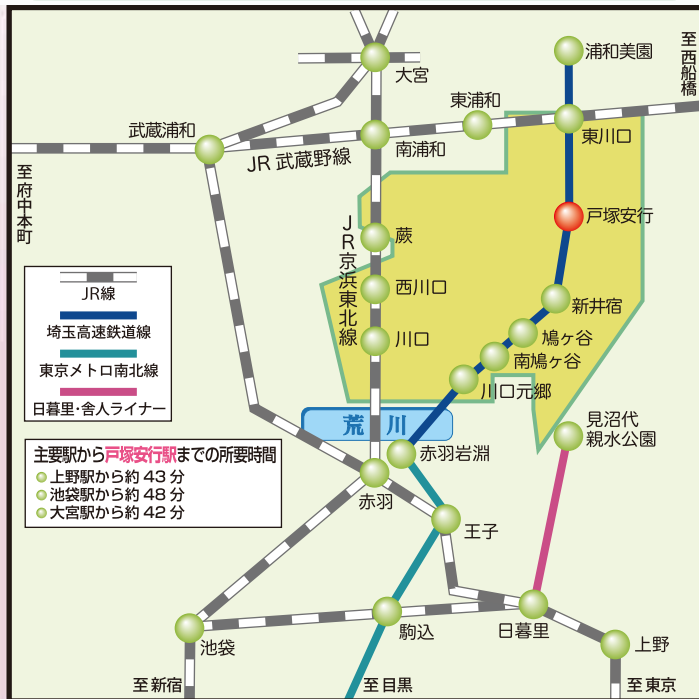


安行で見つけた季節の花たち



プロの技が光る！安行式オープンガーデン

安行地区(9、10コース)では、植木・造園業者を中心としたオープンガーデンが公開されています。これらは、観光ルート以外にもあります。(約40か所)
施設内の庭園を見学される場合は、声をおかけください。詳しくは <http://www.kawazoukyo.jp/> で確認することができます。



川口市経済部産業振興課

〒332-8601 川口市青木2-1-1
電話:048(259)9018
FAX:048(259)2622

2019.1

歩き出せば、そこは江戸 花をめで、歴史をしのぶ

埼玉高速鉄道(SR)の開通で宅地化が進む赤山・安行地区ですが、ひとたび足を踏み入れると、季節ごとに色づく草花や、歴史遺産に出合えます。スタートはSR戸塚安行駅。県道から細い上り坂に入り、しばらく歩くと西福寺に。三重塔は木造建造物では県内一の高さを誇ります。竹林をくぐり外環道を抜けると赤山城跡にたどりつきます。関東郡代として民衆の篤い信頼を得た伊奈氏が160年以上住んでいた地で、歴史に思いをはせてみる。遠い昔の話だけれど、花の移ろいは今も同じ。脈打つような時の流れにうっとりできるコースです。

B-2 赤山城跡

徳川幕府で12代にわたって関東郡代を務めた伊奈氏は寛永6年(1629年)、3代・忠治の時に小室(現在の北足立郡伊奈町)から赤山に居を移しました。これが赤山城で、以来163年間、伊奈氏の拠点となりました。現在も堀と土塁が一部残ります。県指定旧跡。



C-2 赤山山王日枝神社

学問の神・天神社、武家の守護神の八幡社、徳川に縁の深い山王社が明治時代に合祀されました。今に残る築山は、赤山城の堀を採掘した時の土を使ったものといわれています。本殿は江戸時代に建てられ、境内には伊奈家7代・忠順が宝永4年(1707年)、父母への報恩と家の繁栄を願って建立した八幡宮石祠が残ります。本殿と石祠は市指定文化財です。



C-3 花と緑の振興センター

開園は昭和28年(1953年)。植木・果樹などの生産出荷の指導、盆栽等の輸出振興などに努めています。約2.3ヘクタールの広さに約4,600本、2,000品種の植物を展示。四季おりおりの草花が楽しめます。9:00～16:30(10月～3月は16:00まで)、年末年始休、入場無料。



C-3 興禅院

開創は室町時代と伝えられています。本尊の釈迦如来坐像は平安時代の定朝様式の流れをくむ優美な作風で、市指定文化財です。境内は広く、野鳥の森・ふるさとの森や、雑木林の中に安置された十三佛の石像が。枯れたことがないという湧き水も見どころです。



D-3 金剛寺

曹洞宗の寺院で、領主の中田安斉入道安行が明応5年(1496年)に開基したと伝えられています。寺名は安行が金剛経を信奉していたことが由来。幕末の住持・観道禅師が近くの住民に灸を施していたことから「お灸の寺」として知られ、現在も施術が行われています。



山門

門柱の前後に控柱を計4本立てた典型的な四脚門です。屋根は切妻造りの茅葺きで、棟飾りに地域的な特色がみられます。江戸時代初期の建立と考えられ、市指定文化財です。



経塚

室町時代中期、中田安斉入道安行が諸霊の供養のため、一字一石経を埋めて築いたといわれています。川口では貴重な中世の史跡で市指定文化財です。



D-2 慈林薬師宝蔵院

開創は平安時代。本尊の不動明王は慈覚大師の作と伝えられています。もとは京都の醍醐寺三宝院の末寺で、徳川時代には3代家光から30石を賜り、当時の安行村を中心に広く管轄権をもっていました。境内には薬師堂、不動堂、地藏堂、仁王門などがあります。



薬師堂

天平13年(741年)、妻・光明皇后の病氣平癒を願う聖武天皇の勅願で、行基がこの地に薬師仏を造ったのが起こりといわれています。川口三薬師のひとつ。



仁王門

19世紀の江戸化政期の手法を残した典型的な八脚門で、市の文化財に指定されています。正面に阿吽の金剛力士像が、背面には風神雷神像が置かれ、迫力ある造形に圧倒されます。



赤山陣屋と関東郡代・伊奈氏

伊奈氏の系譜

伊奈家の初代・忠次(ただつぐ)は三河国(現在の愛知県)出身で、天正18年(1590年)、まだ天下を統一する前の徳川家康が関東に国替えるにあたり、家康から代官頭を命じられました。忠次は治水・灌漑(かんがい)事業や新田開発、検地の実施などに大いに手腕を発揮しました。寛永19年(1642年)、3代・忠治(ただはる)の時に関東郡代に任命され、荒川や利根川の改修などにあたりました。

関東郡代とは、関東の天領(幕府の直轄地)で農政を担当する役人ですが、成立間もない江戸幕府にとって、天領からの年貢収入を増やし、財政基盤を

確立することはとくに重要でした。そこで、すぐれた行政官が必要となり、忠次からの実績を持つ伊奈氏が登用されたのです。

現在に至る関東地方の河川体系の基礎は、伊奈氏の大規模な整備によるもので、その卓越した技術は「伊奈流」とよばれ、近世の土木史上にその名を残しています。

自然の要塞・赤山陣屋

163年にわたって伊奈氏が拠点とした赤山陣屋は、本丸(御屋形)と二の丸だけで約11万平方メートル、周囲に広がる家臣の土地や菩提寺の源長寺(6コース参照)などを含めると、実に77万平方メートルにも及ぶ大

なものです。

陣屋は、周囲の自然の低湿地を外堀に利用し、その内側に人工の内堀をめぐらせています。総延長は外堀が約3,000メートル、内堀は約1,800メートルに及びました。外堀は深さ約10メートルで、幅が広い上に湿地であったため足場が悪く、堀として十分機能したようです。



最後の関東郡代・伊奈忠尊

人びとが天明の大飢饉(1782～1787年)に苦しむ中、当時の関東郡代・伊奈忠尊(ただたか)は幕府から資金を調達し、全国から買い集めた米を安く売って救済にあたりました。

民衆に人気があった忠尊ですが、側室との子が生まれると、本来後継ぎになるはずの養子・忠善との家督争いがおこり、家臣は分裂。忠善は公務を放棄して家出してしまいます。そのことを隠していた忠尊は幕府にとがめられ、改易(官職をやめられられ、家禄や屋敷を没収されること)が言い渡されました。これにより、関東郡代の伊奈家は廃止されました。

忠尊失脚の背景には、強大な関東郡代の支配力を消滅させようとした幕府の政略があったといわれています。

川口市内観光ルートマップ 9



C-3 花と緑の振興センター



D-3 吉田権之丞の墓(金剛寺)

身も心も江戸時代 花の安行歴史旅

赤山・安行コース



D-3 金剛寺の紅葉



B-2 赤山城跡の桜

身も心も江戸時代 花の安行歴史旅

No.9 赤山・安行コース

スタートは戸塚安行駅。
花と緑に囲まれた、歴史
の里を歩きます

SR戸塚安行駅 スタート

10分 0.8km

百観音公園

14分 1.1km

赤山城跡

16分 1.3km

花と緑の振興センター

15分 1.2km

金剛寺

13分 1.1km

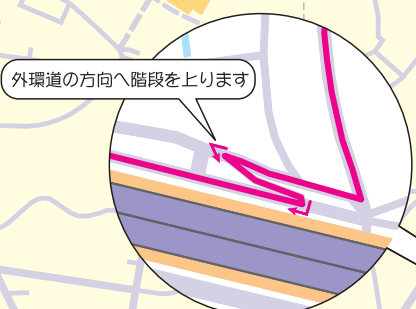
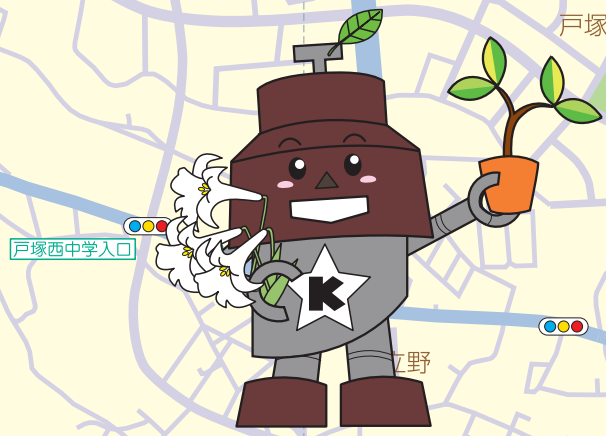
慈林薬師宝蔵院

18分 1.6km

SR新井宿駅 ゴール

所要 86分 全長7.1km

歩く時間は個人差がありますので、あくまで目安です



外環の下をくぐる歩道のないトンネルです。車通りも多いので気をつけて

水たまりに囲まれた水道を歩きます

屋根つきのベンチでひと休み

赤山山王日枝神社

山王公園

赤山城跡

赤山

東郷赤山通り

信号から緩やかなカーブの道を約300メートルほど進んだら、市掲示板を左折、細い道を進みます

案内柱が案内しますので、案内柱の角を左折

吉田権之丞の墓

金剛寺

吉田権之丞の墓

看板に従って右折し金剛寺の長く美しい参道へ

慈林薬師宝蔵院

桜町六丁目

桜町四丁目

桜町三丁目

桜町二丁目

桜町一丁目

桜町

桜町

凡例

観光ルート	河川
オープンガーデン	トイレ
郵便局	だれでもトイレ
公民館	学校
病院	公園・緑地等
バス停	
桜の名所	
神社	
寺院	

